

愛隣館研修センターニュース

第49号

〒 612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 TEL 075-621-3849 FAX 075-621-1579

E-mail : Dayservicecenter.Airin@ma2.seikyoku.ne.jp 振替 01020-5-39321

編集発行人：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター

行事報告

インドスタディーツアーに参加して

森 拓平

今年の夏、僕はインドのスタディーツアー(9月2日～10日)に参加しました。

インドには古くからヒンズー教において『カースト』という身分制度があり、三千年来インドの精神、生活、社会、政治を規定し続けてきました。

抑圧された者 ダリット

インドにはそのカースト制度からも除外された最底辺の人々がいます。一般に「不可触民」と呼ばれていますが、彼らは自らを「抑圧された者」を意味する「ダリット」と名乗ります。彼らは今なおインドの社会の中で「不浄な存在」として差別、疎外されています。

彼らは、ダリット村に隣り合わせのカースト制度内に属する人々(カーストヒンズー)の村の道を自由に歩くこともできず、自分たちの村の井戸が枯れても、隣村の井戸に触れることもできません。貧困のために食事も胡麻水をかけただけのご飯を一日に、しかも一、二度しか口にできない家庭も珍しくありません。

この極度の栄養不良や劣悪な生活環境の中、多くの身体障がい児が生まれています。貧しい家族は、身体の不自由な子どもを十分に世話する余裕はありません。しかも、身体障がい児を持つ家族は「神から呪われている」と村人から疎外される風潮があります。つまり、ダリットの村の身体障がい児達は、村社会からも、家族からも見放された“弱者の中の最弱者”とも言えます。

ARPでの体験

南インドのチェンナイ(旧マドラス)から約60km郊外の農村地帯に「身体障がい児達の家」があります。そこにはダリットの村出身の身体の不自由な子ども達約40人と貧困、離婚、レイプ等によって村社会で生きていけなくなった婦人や少女達が一緒に助け合って生活しています。この施設は彼・彼女らと同じダリットの社会活動家フェリックス・スギルタラージ牧師が1982年に「農村貧困者のための協会=ARP(Association for the Rural Poor)」の活動の一環として設立された施設です。

ARPは差別を受け続けているダリットや、先住山岳民族の人たちに対して、パウロ・フレイレの手法を用いて、貧困に喘いでいる状況から脱却するための教育や村の組織化を主な課題に活動を展開してきました。その活動のために、フェリックス師が村を回っていました。その中で、2重の差別を受け、疎外されている身体障がい児達に出会い、この施設の建設を決心したのでした。

その施設で子どもたちは学校教育と共に身体のリハビリ、さらに将来村社会に帰って自立できる様に職業訓練も受けることができます。ここは彼らにとっても差別も迫害もないシェルターなのです。



ARPの子どもたちと

僕たちは、ツアーの大半をそこで、現地のスタッフ、身体障がい児、孤児、その施設で共に生活する女性達と一緒に過ごしました。子どもたちと一緒にクリケットをしたり踊りを踊ったり、ゲームをしたり、言葉を教えあったり、ARPスタッフと一緒に「民衆劇」に参加したり、そこには当たり前の様に「支え合い」「分かち合い」の姿がありました。

厳しい現実の中でも明るく、楽しく、そして力強く暮らしている彼ら、彼女らの「笑顔」と「希望」に出会い自分たちが日常で失いかけている大切なモノがそこにはありました。障がいは、ハンデではなく一つの個性なのだと思ひ感じました。

ツアーの最終日の子どもたちと僕たちの涙、あの日体験した感覚だけは決して忘れないでいたい。また、機会があれば是非参加したいと思ひます。

行楽報告

一泊旅行 特集

海を見ながらのバーベキューってリッチ

「行きました和歌山・関空へ!」



去る11月21日(火)、22日(水)の晩秋のひとつとき。1泊2日の日程で、紅白と同程度に恒例(ウソ!)となりましたデイサービスの旅行にて、最近旨いラーメンで一躍脚光を浴びている和歌山へ行って参りました。その名も「行きましょう!和歌山へ」(そのままやないかい!!!!)

今年は、利用者13名、スタッフ19名の総勢32名が参加。

いざ出発だー!

センターに10時に集合。毎年お借りしている洛南身体障害者福祉会館のマイクロバスと他3台のワゴン車に分乗。まずは最初の目的地関西空港(以下、関空)へ。名神高速、近畿道、阪和道とはやてのように走り抜け、約2時間で到着。連絡橋から関空が間近に迫ってくると、「すごいな〜」「でかいな〜」「きれいだな〜」と一同大合唱。

“海が見える”レストラン???

到着後、とりあえず昼食を。“海が見える”(がウリの)レストラン「ふれあい」へ。エントランスを通ると正面に雄大な太平洋が!!!!!!。が、たちまち挫折させられ、窓一つない奥の会議室のようなところへ案内されました。でも、人一倍テンションの高いYさんは「最高やね〜」「きれいやね〜」「がんばりや〜?」と、それはそれは喜んで下さったのでした(Yさん、ありがとう!)。少しスジっぽいステーキに舌鼓を打った後、展望ホールへ。

そこで飛行機の離着陸を間近に見(一同、感動)、記念撮影をして、関空を後にしました。

今宵のお宿へご案内

関空から車に揺られること約1時間で、今年の宿「マリンロッジ海風館」へ。窓から淡路島、明石海峡大橋、神戸が一望できるオーシャンビューの風光明媚なところ。まずは、長旅?の疲れをいやすべく、お風呂へ。少々コンパクトにまとまった浴場で、雄大な気分になる、というわけにはいきませんでした。ジャグジー有り、サウナ有り(但し、利用者で入った者わずか一名)で、楽しい入浴タイムを過ごせました。そうそう、入浴タイムの演出に、海パン刑事(テカ?)も登場(男湯)。利用者の背中を流し、自分は熱湯でやけどをして立ち去るというさえない野郎でした。

嬉し、楽し、御夕食

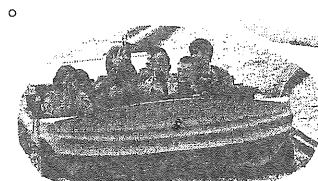
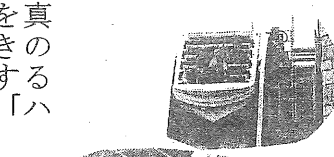
風呂が済んだら、待ってましたの夕食です。懐石有り、船盛りありの豪華なモノでしたが、例年と比べると、特徴というかインパクトの少ない感が否めませんでした。それでも、とりあえず、胃袋へ納め、楽しみにしていたカラオケ大会へ。それぞれの十八番(おはこ)を披露し合い、最後は”花”の大合唱でクライマックスを迎えました。

その後、旅行前「職員HとDには飲み比べでは負けない!」と豪語していた利用者Mとの酒飲み合戦。しかし、口ほどでもなくあっけなくギブアップ!。自分の飲み残しの“アカブルコ”をDに一気に飲み干されるという始末でした。

和歌山にて

翌日は、和歌山の新観光スポット、ポルトヨーロッパ、黒潮市場、和歌山館と楽しさ目白押しのマリーナシティへ。

到着してすぐポルトヨーロッパにて、ヨーロッパなのに“ハリウッド発”がウリのスタントショー「バイキングアドベンチャー」鑑賞へ。不気味な漂流船から現れたバイキングと凸凹刑事コンビが舞台の上で暴れ回るたびに、ピクッ、ピクッと足のあがる程喜んで利用者がいて、なかなかのものでした。昼食後、ヨーロッパ広場にて、メインキャラのダイバーダン君と記念撮影(一同、大喜び!)。その後、それぞれ、思い思いに過ごしました。そして、多くの方が、高さ22mの激流を真っ逆さま。水しぶきの中に絶叫がこだまするウォータースライド「ハイダイブ」に挑戦!。びしょぬれになりながらも生き生きとしたいい顔を見せてくれました。



やったぜ!ハイダイブ!

その後、黒潮市場にてお土産をしこたま買い込んで家路へ。晩秋のひとつとき、楽しい時間を過ごすことが出来、感謝です。来年は沖繩???

クリスマス献金のお願い

日頃は、当センターの活動をご理解頂き、様々な形でご支援を頂きまして、誠にありがとうございます。

昨年4月より、障がい者とその家族とが地域で安心して暮らしていくためのシステム「向島障がい者地域生活支援センター『遊隣』」が始まっております。

当初の予想をはるかに上回る方々が登録/利用され、あらためて障がい者とその家族の方々にとって、「支援センター」のニーズが高かったことを実感しております。公的な補助が未だ受けられない中で、これまで皆様方からの献金によって事業を展開してきております。

何かと物入の時期に加え、これまでも様々な形で多大なるご支援を頂いている皆様方に、新たなお願いを申し上げるのは非常に心苦しいのですが、上記のような事情と趣旨をご理解頂き、今年度も「愛隣館研修センター・クリスマス献金」にご協力頂きますよう、改めてお願いを申し上げます。

クリスマス献金 目標金額

3,000,000 円 ※ 口数、金額ともに任意です。

送金方法

※ 以下の口座をご利用ください。

郵便振替

01020-5-39321

口座名：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター

☆お知らせ☆

▽愛隣館研修センターは、十二月二十九日～一月四日まで冬期休館日とさせていただきます。

▽来る十二月二十三日、愛隣デイサービスセンターにて「障がい者地域生活支援センター『遊隣』」主催のクリスマス会が行われます。午後二時より

★編集後記★

▽新しい生活がスタートしました◇バイクも連れてきました◇まだなれませんが◇時間が足りないよー！◇▽『遊隣』の活動も準備を始めてから二年が経過しました◇登録者も七十名に達しました◇責任の重さを感じます◇いろんな課題も山積みです◇ウオー！っと叫ばずにはおれません(ひ)